
野田高等学校 三話

あき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野田高等学校 二話

【Nコード】

N05920

【作者名】

あき

【あらすじ】

野田高等学校、二話です。
では、どうぞ。

会計 「はぁ・・・。 前は、えらい眼にあつた・・・。 どうしよう。 僕、生徒会

やめようかな？」

副会長 「ふふふ・・・。 里川君。 一人だけ逃げたら、どうなるか分かってるわよね？」

会計 「失礼しました。 ジョークです。 そんな怖い眼で見ないでくださいよ。」

書記 「どうせあいつは今年で卒業なんですから、少しぐらい我慢しろよ、甲斐性なし。」

会計 「それはそうだけども・・・って、今、生徒会長と僕の悪口が聞こえたんだけど！

副会長！ 最近、藤の態度が悪すぎると思いませんか？！
少しぐらい注意してくださいよ！！ 先輩でしょう！！」

副会長 「なに言っているの？ 正常に機能しているじゃないの。 どこを注意すればいいの？」

会計 「だめだ。 もうここには僕しかまともな生徒がない・・・。

書記 「所で、生徒会長がまだ来ていませんが。」

副会長 「あら、本当ね。 この思いつき小説にとつとつ飽きたかしら？」

会計 「思いつきだったとしても、三話まできたんだから少しぐらい認めてやってもいいじゃないですか？ パソコンに触れるのも、週二回ぐらいなんだし・・・。」

副会長 「作者の事情と私達の事情は、なんの関係もないわ。 そもそも、こんなの

続くわけじゃないの。」

会計 「なんでそんなに否定的なんですか！！続かなかつたら、僕ら死ぬんですからね！！！！」

小説という文字の世界の中だけだけど、死ぬんですからね？！！！！」

書記 「死を恐れる奴に、大義なんか果たせない。」

会計 「僕らが死ぬの怖くなったら、風船以上に鮮やかに破裂してしまいますよ！！！！」

副会長 「だって、なにを伝えたいのかよく分からないんですもの。」

書記 「議題とか言って、結局いつも生徒会長の気まぐれにつき合わされているだけですし。」

会計 「まあ、それは否定できないけどさ・・・。」

生徒会長 「おー。すまん、遅れた。」

副会長 「あら生徒会長。ずいぶんと早かったですね。もっとゆつくりしていてもよかったのに。」

会計 「さりげなく生徒会活動がやりたくないっていつていますね・・・。」

生徒会長 「実はな、さっき生物の先生、佐々名に捕まってな。間一髪で逃げてきた所だ。」

会計 「間一髪って・・・いったい、どうして逃げてきたんですか？」

生徒会長 「知らんのか？めがね馬鹿。奴に捕まった奴は、実験体になれ、改造されてしまうんだぞ。」

副会長 「うふふふ・・・改造されて、もっとまともにしてもらえばよかったのに。」

書記 「いつそう、別人にしてもらえばよかったのに。」

会計 「ひどすぎる・・・いくら生徒会長が、わがままで最低な人だからって・・・。」

生徒会長 「いいんだ、会計君。これも、彼女達の愛情なんだから。」

会長は、むしろうれしいよ。仲間達にここまで愛されて

会計 「この先生最悪だよ!!!生徒の存在意義を、勝手に決めやがったよ!!!!!!」

書記 「生徒会長。今日は中止でもいいんじゃないでしょうか?」
生徒会長「おつ、たまにはいいこと言うな。えゝ、それじゃ、今日の生徒会活動は中止とします。」

みんな「、気をつけて帰れよー?」

生物の先生「ま、まで! 貴様ら、せつかくこの超エリートが来てやったのだぞ?!」

質問とか尊敬の言葉とか崇拜とか、色々あるだろうが
ああああ!!!!!!

会計 「この先生、なんか人間として根本的に間違ってるよ!!!!
だれだよ、こんな壊れた奴を先生にした奴!!!!!!」

副会長「里川君。今はね、テストの点数がよければ、こんな性格の破綻したカスみたいな人間でも

先生になれちゃうのよ?覚えておいてね。」

会計 「副会長。けど、こんなナルシストの塊みたいな人を先生にだなんて……。

いくらなんでもあんまりじゃあ……。」

生徒会長「いいんだよ。こんな奴でも、教員免許もってるんだから。
適当に相手をして、点数もらえば。」

会計 「いや、今適当に相手もしてないし、それどころか相手をし
たくなかつて

生徒会活動を注視にしましたよね?」

書記 「こんなの、相手をするだけ時間の無駄です。一緒に、同じ
大気を吸い込んでいるだけでも

吐き気がしているのに。」

生物の先生「き、貴様らあ!!!!さつきから聞いていれば、私に対
する侮辱ばかり!!!!!!

くやしい!!!!!!

こうなったら、私と勝負をしろ!!!!!!!!!!!!!!」

会計 「あゝあ．．．なんか、怒っちゃいましたよ？

どうするんですか？」

生徒会長 「どうするといわれてもな。今日の活動は中止だし。このまま、帰ってもいいんだけど。」

副会長 「うふふ．．．。生徒会長、ここは私にまかせてください。」

生徒会長 「おおっ！行ってくれるか、副会長。安心しろ、お前の骨は拾ってやる。」

副会長 「生徒会長に拾われるくらいだったら、自分で拾います。」

書記 「むしろ、生徒会長の骨を捨てたほうが．．．。」

会計 「なんで死ぬこと前提なんですか！！！」

生物の先生 「やるのか！やらないのか！？はつきりしろ！！！」

副会長 「うふふ．．．せつかちな先生ね．．．．．。」

会計 「．．．副会長、大丈夫でしょうかね．．．。」

書記 「大丈夫だと思いますよ。だって、副会長．．．。」

生徒会長 「あの佐々名が、哀れだと思ったのは初めてだぞ。」

会計 「？．．．どういう意味ですか？

あつ！副会長が、佐々名先生の乗ってきた変な物体に．．

．．．．．先生と、どこかに行っちゃいましたね．．．

生徒会長 「終わったな。佐々名の奴も。」

書記 「生徒会長。死んだ人のことをいっても仕方ありません。

早く帰りましょう。」

生徒会長 「それもそうだな。今日は、来客があるから、自由時間にしようとしてたんだが。」

手間が省けたな。」

会計 「いや、なんで佐々名先生を殺してるんですか！！！」

つか、あんた元々今日の活動やるつもりなかったんですか？！」

生徒会長「さあ〜」。
会計「さあ〜、って！！なんて無責任な生徒会長なんだ・
・。」

こうして、結局わけの分からないまま今日の生徒会活動は終わった。

後に分かったことだが、佐々名先生はこの日の一週間後に、隣町の川岸で発見されたらしい。

佐々名先生はテレビの取材にたいして、「悪魔が！悪魔がああああああ！！」と、

狂氣的なまでのビビリな姿をさらしていた。

世間では、ノイローゼになり、それからみえた幻覚によって川に落ちたのではないかと結論付けられた。

しかし、僕は知っていた。

先生は、ノイローゼなんかじゃない。犯人は・・。

副会長「あらまあ、怖いわね〜。あの先生、ノイローゼですって。」

生徒会長「・・・・・。」

書記「・・・・・。」

会計「・・・・・。」

会計（・・・副会長にだけは、逆らわないようにしよう・・。）

これも、後から分かったことだが、どうやら副会長は、殺人体術の達人だったらしい。

生徒会長「って、今回はこれで終わりかよ。後半、ほとんど会計しかしゃべってねえじゃん。」

会計「あんな・・。」

生徒会長「というわけで、次回からは、生徒会長探偵の始まりだ！！！！」

会計

「みんな、見てくれよな!!!!!!!!!!」
「やらんわああああ!!!!!!!!!!」

(後書き)

やっと、三話です。)
...
これから、がんばります！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0592o/>

野田高等学校 三話

2010年10月11日04時29分発行